

Book Review

Periodontal Team Therapy

歯科医師の視点 歯科衛生士の視点

山本浩正 著

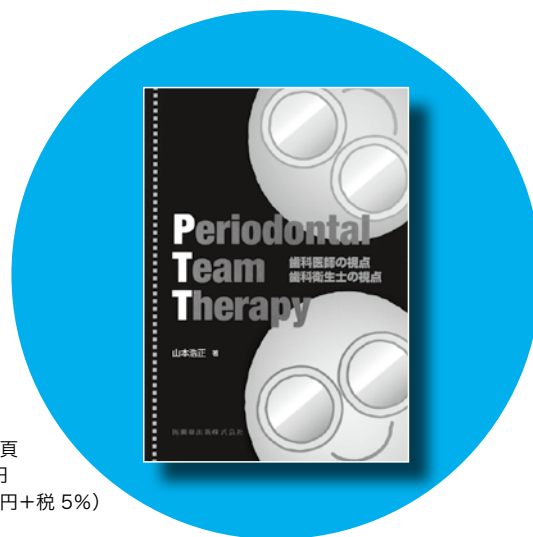


Reviewer

新田 浩 (東のヒロ)

(東京医科歯科大学大学院歯科医療行動科学分野)

A4判, 136頁
定価 6,510円
(本体 6,200円 + 税 5%)
医歯薬出版刊



本書の著者のDr. Hiro (私は勝手に西のヒロと呼んでいます)こと山本浩正先生のセミナーを拝聴した時に、受講者の「歯周外科をする基準は？」という質問に対して、先生が「メインテナンスに来ると確信できる患者さんであること」とズバリ回答されたことが強烈に印象に残っています。「プラークコントロールが良好で、歯周基本治療後に出血を伴う4mm以上の歯周ポケットが残存している場合」が正解と思っていた自分を恥ずかしく思い、まさに歯周治療の真髓をついた回答と感服したことを思い出します。本書にはその真髓が明快に解説されています。

本書を読み始めると、患者さんを中心とした歯周治療の初診から動的治療(歯周基本治療と歯周外科)そして、生涯続くメインテナンスという歯周治療の時間軸が見えてきます。その上下に歯科医師、歯科衛生士がそれぞれの役割をしっかりと主張しながら、3D映像のように登場してきます。そして、最後には主役の患者さんが満足し、サポーターの歯科医師、歯科衛生士が歯

科医院のなかで一緒に喜んでいるイメージが浮かんできます。

歯周治療の成否は、短期的には患者さんのプラークコントロールですが、最終的には、メインテナンスの遵守にかかってきます。本書では、歯周治療のゴールは「患者さんの積極的なメインテナンスの参加」であることが一貫して示されています。患者さん中心の医療の実現のためのヘルスプロモーション活動では、行動を変えられるような支援的な(サポーター的な)環境をつくるのが大切であり、まさに本書のタイトル「歯周チーム医療」が力を発揮します。

チーム医療においては、①情報の共有化、②各職種の役割と登場場面の明確化、がポイントです。本書においては、情報共有化(歯周治療における)を「共通認識」、各職種(歯科医師と歯科衛生士)の役割の明確化を「個別認識」として、歯周治療の流れに沿って、なおかつ、「歯周治療のゴール」を常に意識しながら、わかりやすく解説されています。

チーム医療におけるもう一つのポイ

ントは、「各職種は専門職として対等である」ということです。本書の最後には、「歯科医師こそ歯科衛生士の目を、歯科衛生士こそ歯科医師の目を読んでそれぞれのプロ意識を感じてもらいたい」とあります。本書の随所に歯科衛生士をプロとして信頼している気持ちが現れており、「母なる歯科衛生士」とまで言い切る著者の言葉は圧巻です。

また、本書にはさまざまな診療効率を上げるための手法、コミュニケーション技法、情報を共有するためのチャート、図、写真、文献が惜しげもなく具体的に示されており、著者の診療所における歯周治療が高いレベルで標準化されていることがわかります。本書のこういったツールは、読者の診療所の歯周治療のレベルを上げるために大いに活用できるものです。

冒頭に「実はこんな本を作ってみたかった」とありますが、読者としては「こんな本を読みたかった」という1冊であり、医院のペリオオ力UPのため、ぜひとも、歯科医師、歯科衛生士と一緒に読んでいただきたい書です。